

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームわたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や生活のペースを尊重したケアを展開することによって、利用者の笑顔が暮らしの中にあふれるようになり、さらにそのことが、利用者家族の生活の中に笑顔の場面を増やしていく……。そういった笑顔の連鎖の出発点となれるように、日々努力を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

愛媛県の最南端に位置する事業所は、「地域に根ざした高齢者ケアを行いたい」という代表者の思いから設立されており、自然豊かな環境の中にあり眺望も優れている。代表者は、毎日事業所に出勤して管理者と共に介護に携わっており、職員と話し合う時間や場面が多く、コミュニケーションが良く取れている。職員同士のチームワークも良く、役割分担をしながら業務に励んでいる。職員は、介護する人ではなく生活のパートナーとして、利用者一人ひとりに合わせたペースでケアを行っており、ゆっくりと時間が流れ穏やかに過ごしている。また、利用者の表情が明るく、楽しく生活を送っている様子を伺うことのできる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームわたしの青空

(ユニット名) 東通り

記入者(管理者)
氏名 荒谷 留里

評価完了日 平成 27 年 1 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) リビングに理念を掲示し、日々の実践の検証軸として活かすように心がけている。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念は法人代表者によって作成されており、利用者が地域の中で、その人らしく暮らしていくための利用者と職員などを仲間と捉え支援するあり方を具体的に表現したものである。事業所内の分かりやすい場所に掲示し、月1回の職員会議で共通認識を持ちながらサービスの提供に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の保育所とは定期的に交流の機会があり、小学校とも不定期ではあるが交流の機会がある。また、地域の自主防災組織と合同で学習会や懇親会を行うなど、地域との交流を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 地域の保育園児が訪問し、歌や踊りを披露してくれるなど園児とのふれあいがあり、利用者の楽しみとなっている。また、踊りなどのボランティアの訪問があるなど、交流をしながら利用者の喜ぶ姿が見られることもあるが、日常的な交流には至っていない。代表者と管理者は、地域との関わりを模索しながら取り組む姿勢がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症の人の介護について、地域の人々が本当に欲している情報は何かを探り、そこに焦点を絞った冊子を制作するという形での地域貢献を目指し、その準備に入るところである。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 事業所の考え方や努力の様子を積極的に開示していくことに努めていることもあり、利用者家族等からは、いつも事業所を後押ししてくださるスタンスでの発言が多く、大きな励みになっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、区長、民生委員、町担当者等の参加を得て開催している。会議では事業所の状況や行事、課題等を報告するほか、いろいろなものを取り寄せる試食コーナーなど、柔軟な取組みをしている。参加者から質問や意見が出されるなど双方向的な会議となっているが、会議参加者が少なく多角的な意見が得られるよう、管理者は新たな参加者の呼びかけを検討している。</p>	<p>運営推進会議は事業所での改善課題等を話し合ったり、地域の理解と支援を求める貴重な機会となっているので、職員が出席することは学習の機会でもあり、順次出席できることを望みたい。また、地域密着型サービスとして、事業所に訪問している保育園や消防署等にも会議の参加を促すなどの取組みを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議への毎回の出席をとおして、事業所の状況をよく理解していただいております、平素から懇切な支援をいただけるなど、良好な協力関係が維持できている。</p> <p>(外部評価) 町担当者には、運営推進会議を通して利用者の生活福祉の課題等について相談したり、介護認定の更新時など利用者の暮らしぶりやニーズの具体的な内容を伝え、連携を深めている。運営についても気軽に報告や相談ができる良好な関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 「身体拘束などの排除の理念及び方針」を定めており、職員研修等を通じて、身体拘束をしないケアについての認識の徹底に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束等の排除の理念及び方針」を整備し、事業所のパンフレットに掲載するなど職員全員が身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者個別の症状やその対策については、家族にその都度対策を伝え実践している。また、日々の業務の中で声かけや言葉遣いにも配慮があり、気づいた点は管理者がその都度指導したり、職員間で注意し合ったりしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修をとおして、全職員の高齢者虐待防止についての意識の高揚に努めており、その徹底を期している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解と活用について、全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の際はもちろん、平素の来訪時に、くつろいだ会話の中からさりげなく意見や要望を聞き出すように努めている。	
			(外部評価) 家族は運営推進会議にも出席しており、意見や思いを表せる場を設けている。家族の面会時には職員から話しかけるなど、会話のできる環境をつくっている。毎月「わたしの青空通信」を発行し、事業所の活動状況と利用者毎の様子を報告し、「代表者のヨモダ」のコーナーを毎回掲載する工夫をしている。家族から利用者個人のことについて要望が出されることもあり、些細なことでも迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の定例職員会議時に、意見や提案を聞いており、また、必要な都度、意識調査を実施して職員の考えを運営に反映させるように努めている。 (外部評価) 代表者と管理者は共に介護に携わっていて、職員と話し合う時間や場面が多く、コミュニケーションが良く取れている。職員は日々の支援の中で気がついたことや意見を管理者に伝えることができる環境が整っている。外部研修に関しては、職員が参加しやすいよう体制を整え、サービスの向上に努めている。研修を受講した際には、事業所内で伝達研修を行い、職員間の情報共有に努めており、事業所を共に良くしていこうとする姿勢を伺うことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務考課制度を導入し、評価基準を明確にして職員の意欲向上を図っている。また、希望する職員には、事業所負担で、産業カウンセラーのカウンセリングが受けられる制度もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定例職員会議や必要に応じて開催する職員研修会が職員育成の主な機会となっている。法人外の研修等についても、情報提供に努め、職員の受講を促すようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 松山市のグループホームと代表者同士の交流が深まりつつあり、これを管理者や職員同士の交流へと発展させ、サービスの質の向上につなげていけるように考えている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に訪問面接し、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に、事業所を見学していただき、家族等の話に耳を傾け、心配事や要望等を安心して話していただける関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まずは、生活を注意深く見つめ、本人の「できることは何か」、「やりたいと思っていることは何か」を見つけ出していくことに意識を傾け、どんな対応が必要かを考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の理念の中にこのことを掲げ、職員と利用者とを「介護する側・される側」ではなく「生活のパートナー」であるとする捉え方を、全職員に徹底させるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月家族に届ける「通信」の担当者コメント欄を活用するなどして、利用者本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていこうとしている事業所の思いが伝わるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身内以外の方が来訪された際、また次に来やすい印象を抱いていただけるように、温かい対応を心がけている。 (外部評価) 地元の利用者がほとんどで、病院を受診した際には友人や知人に会うことができる。家族や知人の面会時には、くつろいだ雰囲気の中でゆっくり時間を過ごせるよう配慮するなど、馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。以前は、生家のある地域やお墓参りに出かけていたが、重度化や症状が進行して利用者からの希望がなくなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係についての情報を職員間で共有し、すべての利用者が互いに尊重し合いながら楽しく穏やかに生活できるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も、利用者家族が気軽に立ち寄ってくださっている。中には、利用者が亡くなられて契約終了となった後も、引き続き運営推進会議構成員となってくさっている方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ダイレクトに思いを伝えられない利用者のために、日々の生活の中で見られるさりげない言葉や行動から本人の意向をくみ取ることができるよう努めている。 (外部評価) 職員は、常日頃から利用者に関わる時間を大切にし、居室や入浴時など利用者と1対1の介護現場などで、利用者の思いや希望を聞かせてもらっている。思いや意向の表出が難しい利用者には、ふとした時に出た言葉やしぐさから利用者の思いを感じ取っている。把握した内容は介護記録に記載し、カンファレンスで職員間の情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から得た情報を職員間で共有し、介護計画に反映させることができるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、介護記録や健康状態の記録をつけて、職員間で情報を共有し、細かな変化も見落とさないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 折りに触れて家族の意向を確認し、それと利用者本人の現状を踏まえて全職員でカンファレンスを行い、忌憚のない意見を述べ合って、介護計画の作成に反映させている。 (外部評価) 担当職員を中心に管理者と計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、カンファレンスで職員全員で意見を出し合い介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、状況確認すると共に、現状に応じて、計画の見直しをしている。管理者は、常に意識して家族の意向を聞き計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護日誌や介護記録に毎日の様子を記入し、職員間で情報を共有している。カンファレンスの際には、こういったものを客観的に見つめ直し、介護計画の見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) そこまでの取り組みはない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内の踊りの愛好者に踊りを披露していただいたり、元高校教員（音楽）を指導者として招き、月2回程度、「楽しいお歌の時間」を設けるなど、地域の人材活用に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は、本人及び家族の意向を最大限尊重しており、かか りつけ医への連絡はこまめに行っている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を継続できる よう、家族の協力を得ながら支援している。利用者の急な 体調変化には、連携のある医療機関に相談し定期的に往診 を依頼するなど、健康管理の面で安心感がある。また、必 要に応じて、専門医と連携を取ることもでき、適切な医療 を受けられる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づいたことは職場内の看護師資格を有する介護職員に伝 えて相談するようにしており、常に適切な対応がとれるよ うに心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の病院関係者との情報伝達が円滑に進むように、 普段から病院の医師・看護師に対して報告・連絡・相談を こまめに行うことを心がけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から家族に十分な説明をしていただいた上で、主治 医・家族・事業所が合意文書を作成し、それに基づいた取 り組みを行っている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を定めており、誰にも必ず訪れる 「死」について目を背けるのではなく、職員は自らのこと として受け止め看取りを行っている。職員は夜勤時の不安 があるが、家族や医療関係者などと連携を図りながら対応 できる体制となっている。利用者や家族が希望すれば、住 み慣れた事業所で安心して最期を迎えられるよう前向きに 取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練はできていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て防災訓練を実施し、克服すべき課題をきちんと把握することに努めている。地元の自主防災組織との協力関係をより強固なものにしていけるよう努力している。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得て防災避難訓練を実施している。訓練には実際に利用者も参加して、避難や初期消火を実施し、消防署からアドバイスをもらっている。スプリンクラーの設置があり、食料や飲料水などの備蓄品を用意するなど、災害発生時への備えをしている。利用者の重度化により職員だけの避難誘導には限界があり、代表者は利用者の命を守る手だての取組みに努力しており、地域との協力体制作りを検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の利用者にあった話し方、なじみの言葉、敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりにあった声かけをしている。日常生活の中で、特にトイレへの誘導や入浴介助などのデリケートな場面では、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように気配りしながら対応している。また、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。	1
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を素直に表現できるような雰囲気づくりを第一に考えて取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、できる限り自由に、そして自分に合ったペースで過ごしていただけるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 男女共に、希望に応じて訪問美容師によるカット・パーマを利用していただき、快適に過ごしていただいている。また、希望される女性利用者には、職員が化粧やマニキュアの支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に、材料切りや配膳・後片付けを職員と一緒にさせていただくようにしている。	
			(外部評価) 利用者と職員が同じテーブルを囲んで、一緒に同じ物を食べながら楽しく食事ができる雰囲気づくりをしている。利用者には玉ねぎの皮むき等無理のないよう配慮しながら、できることを手伝ってもらっている。嚥下困難な利用者には、状態に合わせてお粥やキザミ食にするなど食べやすい工夫をしている。利用者からリクエストメニューを聞いて調理することもあり、「ちらし寿司」の人气が高い。利用者と一緒に焼きそばなどをホットプレートで作ったり、そうめん流しをするなど、食が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量・水分摂取量を利用者ごとに確認している。食事形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない利用者には、スポンジブラシを使用するなどして、口腔清拭を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人一人の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行うように努めており、可能な限りトイレで排泄するようにしていただいている。 (外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、利用者の身体状況に合わせてオムツやパット、ポータブルトイレなどを上手く使い分けて支援している。日中はできる限りトイレでの排泄を重点に支援している。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけやトイレ誘導をしてスムーズに排泄が行えるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々の水分摂取量をチェックしながら、適度な食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。また、毎朝体操をして身体を動かすようにしており、どうしても便通のない時は、医師に相談して薬を服用していただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。 (外部評価) 毎日入浴できる体制を築いており、利用者の希望に応じて入浴することができる。入浴を嫌う利用者には、声かけのタイミングや対応を工夫している。入浴時には、利用者と職員が1対1でじっくり向き合うことができるため、利用者の思いを聞くことができたり、新しい一面をみることのできる場面でもあり、職員はゆったりリラックスできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと、自由に自分の時間を過ごしていただけるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は利用者別のロッカーに保管し、内容をいつでも確認することができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら支援することを心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人一人の状況や希望によって、行き先や所要時間の長短に違いはあるが、可能な限り外出の誘いかけをし、支援するように努めている。	
			(外部評価) 外出の機会として、年間行事にお花見などが予定されているが、利用者の重度化に伴い、外出する利用者が限られてきている状況である。代表者は外出の大切さを認識しており、外出が困難な利用者には広々とした敷地内を車いすで散歩したり、外気浴をしたりできるよう支援している。外出時には、普段見られないような利用者の一面を見ることもできる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にしていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各居室・リビング・脱衣室に温度計を取り付け、こまやかな室温調節を心がけている。 居室入り口ドアには、利用者が職員と一緒に作った折り紙の飾りのついたのれんを掛けている。</p> <p>(外部評価) 事業所全体が広々としており、清潔感がある。天窗がある高い天井のリビングは明るく開放的で、食卓テーブルとソファ席を分け、ゆったりと過ごせるように配置されている。畳敷きの空間もあり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができている。また、リビングには利用者と職員と一緒に作った季節感のある作品が飾られているほか、日常的に利用者がロケッツの歌詞を貼っている。利用者のほとんどが日中リビングで過ごし、みんなでテレビを見たり談笑したりしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにソファを置いており、畳のスペースもある。一人一人が思い思いに過ごすことができ、また、気の合った者同士で語り合うこともできるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが完備されている。自宅から使い慣れた寝具やテレビ、タンスを持ち込まれ、壁には家族と一緒に過ごした思い出の写真を飾るなど、生活しやすいよう配置している。自分だけの時間を大切に、これまでの生活スタイルが継続できている様子が伺える。また、転落等の事故が起きないように、マットを敷く工夫をしている居室もある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 「できること」「わかること」の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームわたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や生活のペースを尊重したケアを展開することによって、利用者の笑顔が暮らしの中にあふれるようになり、さらにそのことが、利用者家族の生活の中に笑顔の場面を増やしていく……。そういった笑顔の連鎖の出発点となれるように、日々努力を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

愛媛県の最南端に位置する事業所は、「地域に根ざした高齢者ケアを行いたい」という代表者の思いから設立されており、自然豊かな環境の中にあり眺望も優れている。代表者は、毎日事業所に出勤して管理者と共に介護に携わっており、職員と話し合う時間や場面が多く、コミュニケーションが良く取れている。職員同士のチームワークも良く、役割分担をしながら業務に励んでいる。職員は、介護する人ではなく生活のパートナーとして、利用者一人ひとりに合わせたペースでケアを行っており、ゆっくりと時間が流れ穏やかに過ごしている。また、利用者の表情が明るく、楽しく生活を送っている様子を伺うことのできる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームわたしの青空

(ユニット名) 西通り

記入者(管理者)
氏名 荒谷 留里

評価完了日 平成 27 年 1 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) リビングに理念を掲示し、日々の実践の検証軸として活かすように心がけている。	
			(外部評価) 事業所の理念は法人代表者によって作成されており、利用者が地域の中で、その人らしく暮らしていくための利用者と職員などを仲間と捉え支援するあり方を具体的に表現したものである。事業所内の分かりやすい場所に掲示し、月1回の職員会議で共通認識を持ちながらサービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の保育所とは定期的に交流の機会があり、小学校とも不定期ではあるが交流の機会がある。 また、地域の自主防災組織と合同で学習会や懇親会を行うなど、地域との交流を大切にしている。	
			(外部評価) 地域の保育園児が訪問し、歌や踊りを披露してくれるなど園児とのふれあいがあり、利用者の楽しみとなっている。 また、踊りなどのボランティアの訪問があるなど、交流をしながら利用者の喜ぶ姿が見られることもあるが、日常的な交流には至っていない。代表者と管理者は、地域との関わりを模索しながら取り組む姿勢がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症の人の介護について、地域の人々が本当に欲している情報は何かを探り、そこに焦点を絞った冊子を制作するという形での地域貢献を目指し、その準備に入るところである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 事業所の考え方や努力の様子を積極的に開示していくことに努めていることもあり、利用者家族等からは、いつも事業所を後押ししてくださるスタンスでの発言が多く、大きな励みになっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、区長、民生委員、町担当者等の参加を得て開催している。会議では事業所の状況や行事、課題等を報告するほか、いろいろなものを取り寄せる試食コーナーなど、柔軟な取組みをしている。参加者から質問や意見が出されるなど双方向的な会議となっているが、会議参加者が少なく多角的な意見が得られるよう、管理者は新たな参加者の呼びかけを検討している。</p>	運営推進会議は事業所での改善課題等を話し合ったり、地域の理解と支援を求める貴重な機会となっているので、職員が出席することは学習の機会でもあり、順次出席できることを望みたい。また、地域密着型サービスとして、事業所に訪問している保育園や消防署等にも会議の参加を促すなどの取組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議への毎回の出席をとおして、事業所の状況をよく理解していただいております、平素から懇切な支援をいただけるなど、良好な協力関係が維持できている。</p> <p>(外部評価) 町担当者には、運営推進会議を通して利用者の生活福祉の課題等について相談したり、介護認定の更新時など利用者の暮らしぶりやニーズの具体的な内容を伝え、連携を深めている。運営についても気軽に報告や相談ができる良好な関係を築いている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 「身体拘束などの排除の理念及び方針」を定めており、職員研修等を通じて、身体拘束をしないケアについての認識の徹底に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束等の排除の理念及び方針」を整備し、事業所のパンフレットに掲載するなど職員全員が身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者個別の症状やその対策については、家族にその都度対策を伝え実践している。また、日々の業務の中で声かけや言葉遣いにも配慮があり、気づいた点は管理者がその都度指導したり、職員間で注意し合ったりしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修をとおして、全職員の高齢者虐待防止についての意識の高揚に努めており、その徹底を期している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解と活用について、全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の際はもちろん、平素の来訪時に、くつろいだ会話の中からさりげなく意見や要望を聞き出すように努めている。	
			(外部評価) 家族は運営推進会議にも出席しており、意見や思いを表せる場を設けている。家族の面会時には職員から話しかけるなど、会話のできる環境をつくっている。毎月「わたしの青空通信」を発行し、事業所の活動状況と利用者毎の様子を報告し、「代表者のヨモダ」のコーナーを毎回掲載する工夫をしている。家族から利用者個人のことについて要望が出されることもあり、些細なことでも迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の定例職員会議時に、意見や提案を聞いており、また、必要な都度、意識調査を実施して職員の考えを運営に反映させるように努めている。 (外部評価) 代表者と管理者は共に介護に携わっていて、職員と話し合う時間や場面が多く、コミュニケーションが良く取れている。職員は日々の支援の中で気がついたことや意見を管理者に伝えることができる環境が整っている。外部研修に関しては、職員が参加しやすいよう体制を整え、サービスの向上に努めている。研修を受講した際には、事業所内で伝達研修を行い、職員間の情報共有に努めており、事業所を共に良くしていこうとする姿勢を伺うことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務考課制度を導入し、評価基準を明確にして職員の意欲向上を図っている。また、希望する職員には、事業所負担で、産業カウンセラーのカウンセリングが受けられる制度もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定例職員会議や必要に応じて開催する職員研修会が職員育成の主な機会となっている。法人外の研修等についても、情報提供に努め、職員の受講を促すようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 松山市のグループホームと代表者同士の交流が深まりつつあり、これを管理者や職員同士の交流へと発展させ、サービスの質の向上につなげていけるように考えている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に訪問面接し、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に、事業所を見学していただき、家族等の話に耳を傾け、心配事や要望等を安心して話していただける関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まずは、生活を注意深く見つめ、本人の「できることは何か」、「やりたいと思っていることは何か」を見つけ出していくことに意識を傾け、どんな対応が必要かを考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の理念の中にこのことを掲げ、職員と利用者とを「介護する側・される側」ではなく「生活のパートナー」であるとする捉え方を、全職員に徹底させるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月家族に届ける「通信」の担当者コメント欄を活用するなどして、利用者本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていこうとしている事業所の思いが伝わるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身内以外の方が来訪された際、また次に来やすい印象を抱いていただけるように、温かい対応を心がけている。	
			(外部評価) 地元の利用者がほとんどで、病院を受診した際には友人や知人に会うことができる。家族や知人の面会時には、くつろいだ雰囲気の中でゆっくり時間を過ごせるよう配慮するなど、馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。以前は、生家のある地域やお墓参りに出かけていたが、重度化や症状が進行して利用者からの希望がなくなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係についての情報を職員間で共有し、すべての利用者が互いに尊重し合いながら楽しく穏やかに生活できるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も、利用者家族が気軽に立ち寄ってくださっている。中には、利用者が亡くなられて契約終了となった後も、引き続き運営推進会議構成員となってくさっている方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ダイレクトに思いを伝えられない利用者のために、日々の生活の中で見られるさりげない言葉や行動から本人の意向をくみ取ることができるよう努めている。 (外部評価) 職員は、常日頃から利用者に関わる時間を大切にし、居室や入浴時など利用者と1対1の介護現場などで、利用者の思いや希望を聞かせてもらっている。思いや意向の表出が難しい利用者には、ふとした時に出た言葉やしぐさから利用者の思いを感じ取っている。把握した内容は介護記録に記載し、カンファレンスで職員間の情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から得た情報を職員間で共有し、介護計画に反映させることができるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、介護記録や健康状態の記録をつけて、職員間で情報を共有し、細かな変化も見落とさないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 折りに触れて家族の意向を確認し、それと利用者本人の現状を踏まえて全職員でカンファレンスを行い、忌憚のない意見を述べ合って、介護計画の作成に反映させている。 (外部評価) 担当職員を中心に管理者と計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、カンファレンスで職員全員で意見を出し合い介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、状況確認すると共に、現状に応じて、計画の見直しをしている。管理者は、常に意識して家族の意向を聞き計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護日誌や介護記録に毎日の様子を記入し、職員間で情報を共有している。カンファレンスの際には、こういったものを客観的に見つめ直し、介護計画の見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) そこまでの取り組みはない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内の踊りの愛好者に踊りを披露していただいたり、元高校教員（音楽）を指導者として招き、月2回程度、「楽しいお歌の時間」を設けるなど、地域の人材活用に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は、本人及び家族の意向を最大限尊重しており、かか りつけ医への連絡はこまめに行っている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を継続できる よう、家族の協力を得ながら支援している。利用者の急な 体調変化には、連携のある医療機関に相談し定期的に往診 を依頼するなど、健康管理の面で安心感がある。また、必 要に応じて、専門医と連携を取ることもでき、適切な医療 を受けられる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づいたことは職場内の看護師資格を有する介護職員に伝 えて相談するようにしており、常に適切な対応がとれるよ うに心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の病院関係者との情報伝達が円滑に進むように、 普段から病院の医師・看護師に対して報告・連絡・相談を こまめに行うことを心がけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から家族に十分な説明をしていただいた上で、主治 医・家族・事業所が合意文書を作成し、それに基づいた取 り組みを行っている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を定めており、誰にも必ず訪れる 「死」について目を背けるのではなく、職員は自らのこと として受け止め看取りを行っている。職員は夜勤時の不安 があるが、家族や医療関係者などと連携を図りながら対応 できる体制となっている。利用者や家族が希望すれば、住 み慣れた事業所で安心して最期を迎えられるよう前向きに 取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練はできていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て防災訓練を実施し、克服すべき課題をきちんと把握することに努めている。地元の自主防災組織との協力関係をより強固なものにしていけるよう努力している。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得て防災避難訓練を実施している。訓練には実際に利用者も参加して、避難や初期消火を実施し、消防署からアドバイスをもらっている。スプリンクラーの設置があり、食料や飲料水などの備蓄品を用意するなど、災害発生時への備えをしている。利用者の重度化により職員だけの避難誘導には限界があり、代表者は利用者の命を守る手だての取組みに努力しており、地域との協力体制作りを検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の利用者にあった話し方、なじみの言葉、敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりにあった声かけをしている。日常生活の中で、特にトイレへの誘導や入浴介助などのデリケートな場面では、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように気配りしながら対応している。また、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。	1
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を素直に表現できるような雰囲気づくりを第一に考えて取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、できる限り自由に、そして自分に合ったペースで過ごしていただけるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 男女共に、希望に応じて訪問美容師によるカット・パーマを利用していただき、快適に過ごしていただいている。また、希望される女性利用者には、職員が化粧やマニキュアの支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に、材料切りや配膳・後片付けを職員と一緒にさせていただくようにしている。	
			(外部評価) 利用者と職員が同じテーブルを囲んで、一緒に同じ物を食べながら楽しく食事ができる雰囲気づくりをしている。利用者には玉ねぎの皮むき等無理のないよう配慮しながら、できることを手伝ってもらっている。嚥下困難な利用者には、状態に合わせてお粥やキザミ食にするなど食べやすい工夫をしている。利用者からリクエストメニューを聞いて調理することもあり、「ちらし寿司」の人气が高い。利用者と一緒に焼きそばなどをホットプレートで作ったり、そうめん流しをするなど、食が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量・水分摂取量を利用者ごとに確認している。食事形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない利用者には、スポンジブラシを使用するなどして、口腔清拭を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 利用者一人一人の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行うように努めており、可能な限りトイレで排泄するようにしていただいている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、利用者の身体状況に合わせてオムツやパット、ポータブルトイレなどを上手く使い分けて支援している。日中はできる限りトイレでの排泄を重点に支援している。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけやトイレ誘導をしてスムーズに排泄が行えるよう支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 日々の水分摂取量をチェックしながら、適度な食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。また、毎朝体操をして身体を動かすようにしており、どうしても便通のない時は、医師に相談して薬を服用していただいている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。</p> <p>(外部評価) 毎日入浴できる体制を築いており、利用者の希望に応じて入浴することができる。入浴を嫌う利用者には、声かけのタイミングや対応を工夫している。入浴時には、利用者と職員が1対1でじっくり向き合うことができるため、利用者の思いを聞くことができたり、新しい一面をみることのできる場面でもあり、職員はゆったりリラックスできるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ゆったりと、自由に自分の時間を過ごしていただけるように心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は利用者別のロッカーに保管し、内容をいつでも確認することができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら支援することを心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人一人の状況や希望によって、行き先や所要時間の長短に違いはあるが、可能な限り外出の誘いかけをし、支援するように努めている。	
			(外部評価) 外出の機会として、年間行事にお花見などが予定されているが、利用者の重度化に伴い、外出する利用者が限られてきている状況である。代表者は外出の大切さを認識しており、外出が困難な利用者には広々とした敷地内を車いすで散歩したり、外気浴をしたりできるよう支援している。外出時には、普段見られないような利用者の一面を見ることが出来る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にしていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各居室・リビング・脱衣室に温度計を取り付け、こまやかな室温調節を心がけている。 居室入り口ドアには、利用者が職員と一緒に作った折り紙の飾りのついたのれんを掛けている。</p> <p>(外部評価) 事業所全体が広々としており、清潔感がある。天窗がある高い天井のリビングは明るく開放的で、食卓テーブルとソファ席を分け、ゆったりと過ごせるように配置されている。畳敷きの空間もあり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができている。また、リビングには利用者と職員と一緒に作った季節感のある作品が飾られているほか、日常的に利用者がロケツサむ歌詞を貼っている。利用者のほとんどが日中リビングで過ごし、みんなでテレビを見たり談笑したりしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにソファを置いており、畳のスペースもある。一人一人が思い思いに過ごすことができ、また、気の合った者同士で語り合うこともできるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが完備されている。自宅から使い慣れた寝具やテレビ、タンスを持ち込まれ、壁には家族と一緒に過ごした思い出の写真を飾るなど、生活しやすいよう配置している。自分だけの時間を大切に、これまでの生活スタイルが継続できている様子が伺える。また、転落等の事故が起きないように、マットを敷く工夫をしている居室もある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 「できること」「わかること」の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。</p>	